

選挙界の與太話も

巷から影を潜めて

ひつそり閑とした静肅さ

仕事に勵行が一番無事!

従来と別個の興味

選挙肅正の猛運動下に展開された今回の縣議選舉に當つて以前は選舉に油が乗つて來る頃になると選舉民まで何時か熱に浮かされて仕事を忘れる向が多かつた。それでも普通で餘程改まつた。と云ふもの、

投票場は

町會議事堂

平町は來る廿五日行はれる縣會議員選舉の平町投票所を役場内町會議事堂に設置する旨を本十八日付で告示した

入場券配布

平町役場が 吏員總出で

選挙界の與太話も影をひそめ全体に静肅になつて了つたこととこれに棄權が少なかつたら申分ない。云ふが、お蔭で花柳街や一般商人はこぼすこと、候補者にしても従来と一新した法定の費用以内で済む様になればこれも大助りだ。

肅正禮讚

に早變りするに相違ない然しそれも結果を見てからのことであつて肅正最初のこの一戦、一般に熱があらうが無か、が興味だけは饒かな譯で待

二七 北目六四 大町十五丁目二〇一 鐵道官舎 六九 特例二五

平商警中

共に神宮へ

庭球部推薦さる、平商、警中兩校庭球部は來月廿七日より開催の神宮競技全國中等學校軟式庭球大會へ本縣代表として出場すべく今十八日縣體育協會より推薦された、尙平商庭球部では來る廿二日水戸市で開催の水戸高等學校主催關東北中等學校軟式庭球大會へ出場する

郡下交通量

十六ヶ所で調査

國勢調査日から二日間

全國一齊に行はれる國勢調査當日の十月一日より三日間平土木監督所では郡下主要道路十六ヶ所に全所員を動員して歩行者、牛馬、自動車、自轉車、荷車其他の詳細な交通量を調査すべく本十八日より準備を開始したが調査時刻は各所共午前六時から午後八時迄、尙平其他の市内は夜十二時迄である。と郡内の調査箇所左の如くである

- 長橋一四五 研古二二五
- 紺屋町一五八 田町一九〇
- 一〇四 三丁目九三 四
- 丁目一〇〇 五丁目一二
- 三 新川町一八〇 材木
- 町一八〇 鍛冶町一二一
- 南町二三三 久保町一
- 五 胡摩澤一三八 北白

濟生會御親授

來月二日濟生會總會に於て閑院宮殿下より會員章御親授を賜る石城郡の有資格者は左の通り

- △千圓以上—諸橋久太郎
- 山崎與三郎 菅原萬次郎
- 吉田宗雄 下野十郎 小田吉治△五百圓以上—和田龍太郎 戸部光衛△二百圓以上—青木貴一 馬目太平治 草野正壽 酒井秀次郎 鈴木堅助 山本黨 百澤易興 五十嵐榮次郎 水野一壽 萩原申八 藤田茂 小宮嘉久 三 三浦嘉市 山崎清三 河田梅吉 杉山今朝吉 吉田保之助 木村正夫 小室萬五郎 赤津庄兵衛 大平睦四郎 金成大五郎 江尻博孝 根本福太郎 山野邊甫 横山太一 兒玉萬年 小松章 小松彌太郎 齊藤佐久馬

掃立増の人々を 狂喜させた相場

ウナギ上りの晩秋繭 四倉勿來兩市場共に期待

四倉繭市場は廿四日、勿來繭市は廿七日に夫々開場されるが石城地方養蠶家は此の相場を期待する折柄繭上りの晩秋繭は去る十五日三春市場で五圓を突破五圓二錢を呼び、十六日の本宮市場では五圓十錢と云ふ最高値を現出買馴四圓七十三錢、卅九掛見當と云ふ意想外の高値で對米關係の現状から未だこの相場を維持するものと見られ石城地方の養蠶家中尻上りを見越して掃立を増した人達は狂喜の如く雀躍してゐる、尙晩秋繭の現金支出は一圓卅錢程度であるから三圓五十錢に賣れば優に手間は取れる勘定で五圓の突破は農村を濡して餘りあるものがある

渡邊養蠶協議 渡邊村養蠶實行組合は來る廿日午後一時より役場内で協議會を開き晩秋繭の共同出荷に就いて打合せすると

平町人事 結婚 姻 △千葉市寒川古川信一氏 (三二) 鎌田町二九新井マサ子(二六)さん

内科一般

醫學博士 難波 睦

看護婦募集

平町大町新川端 電話五〇〇二

吸入用酸素純度99%

度量衡器 摩ノサシ 温度計 寒暖計

關内藥局

電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町 南町一六(電話一七〇番)

虚勢を張る

孝行娘

米や金をせぶる

虫の好い説諭願

昨今感傷の秋の家出人捜査願の殺到に随分張り切つてゐる平署にこれは又随分と虫のよい勝手な説諭を願出た浮薄な近代娘氣質の好範例——赤井村生れ當時東京市豊島區池袋二丁目二〇四四居住の軍司つね代は昨年赤井村大字赤井に居住する父母を東京は好いとこだからと嫌がるのを

無理に 上京させ僅か計り樂になつた自分の生活の虚勢を張り人に見せ様と一かどの孝行振りを發揮し

たが昨今の不況で虚勢ばかりちや兩親を養ふことが出来なくなつたので

郷里の 永戸村大字下永井に木挽をしてゐる弟栗原壽男から扶養料を搾ることと思ひつき十七日壽男に月々米一俵か金十圓を送る様警察の力では非實行させて呉れと平署に申込んで来たもので随分

勝手な 飽くまで自己中心な近代娘氣質の虫のよさに署員も呆れ返つてゐた

町通り磐東銀に隣接した百二十坪の敷地に鐵筋コンクリー二階建のモダン社屋を建築する事となり既に請負者中山組が着工して居り來月末迄には竣工の筈

磐中辨論會

廿七日と決定

磐中辨論部の秋季辨論大會は來る廿七日に決定し目下部員は當日の王座を目指して練習中

山間部凶作か?

二ヶ年間連續の善後策

當局は重大視

野平稅務署は實地調査のため十六日三阪、十七日澤渡に出張詳細視察を行つた

簡易保險の 平郵便學童成績品 局では來る十月一日の簡易保險事業創始記念日に當り郡内各小學校児童より簡易保險に

大野青年會館 大野村青年團が工費八百餘圓で役場隣に建設した青年會館は此程竣工來る十九日竣工式を擧げる筈の處卅日に延期された

第二秋季運動 平第二小學校では今十八日午後二時から職員會を開き秋季運動會を打合せ由

夏井川に轉落 同乗者が慘死 彼の三名も瀕死の重傷 木材を滿載のトラツク

平裁判たより 石城郡内郷村大字小島字新町三三日雇業八卷元治(三)好間村大字北好間字野田魚商阿部喜平(三)内郷村御概上宿五二魚行商鈴木金太郎(三)の三名は去る六月廿八日午後十時頃前記八卷元治方で花賭博を開帳し今十九日賭博罪で略式罰金各二十圓に處された

東北唯一の設備 關係等に阻まれ東北地方に一つもなく不便を極めてゐた折柄であり關係方面から非常な喜びを以つて迎へられてゐる、尙電氣應用の点では本邦有数の大規模のもので今後平町の代表工場として他地に誇り得る設備であると

減收豫想に 稅務署長視察 收獲期の近づいた石城郡下の稲作は連日の天候不順で三阪、澤渡、川前、永戸各村では四割近い減收は免れぬと觀測されて居たので唯

植田水力 社屋新築 植田水力電氣會社は今回本

磐女講堂に 櫻丘會の設備 四千圓を醸金

正面の几帳窓掛、電飾裝置懸掛等を右大建築に相應しい設備として備付け内容外觀共に縣下一の講堂とすべく經費約四千圓を會員から醸金することゝなつた

磐城高等女學校多年の懸案とされてゐた講堂建設は既報の如く小田吉治氏の一萬三千圓の寄附により愈々實現の運びとなり今年十二月末には間口十間、奥行十五間、總建坪百五十坪、大玄關附屬廊下付の新和洋折衷式の堂々たる建築として竣工することゝなつたが同校櫻丘會では内容附屬品たる

明日のラジオ 十九日 天 今晩北東の風 雨模様明日北西の風天気よし

今晩の部 後六、〇〇 子供の時間 名作物語「法螺吹先生」東京放送童話研究会 後六、二五 基礎英語講座 岡倉由三郎 後七、三〇 滿洲事變 四周年記念講演「事變四周年に際し」南關東軍司令

明日の部 後九、三〇 時報 ニュー氣象通報 社報告 後六、二五 農家の時間 「自給肥料の肥効に就て」木村次郎 後七、三〇 講演「經濟機構は變革し得るや」竹越與三郎 後八、〇〇 ラヂオドラマ 上高地抄岡田嘉子御橋公 他 後九、一〇 舞踏音 樂吹奏樂 第十九世紀後半よりジャズ發生まで 菅原明朗 指揮大阪吹奏樂團

夏井川に轉落 同乗者が慘死 彼の三名も瀕死の重傷 木材を滿載のトラツク 年九月より本年八月頃まで同町大字郡字白原福田留藏外七名宅へ深夜八回に亘り忍入り住居侵入罪で略式罰金四十圓 △住居不定日雇業前科二犯三浦貞吉(三)が昨年十月頃より今年八月廿五日頃まで双葉郡大久村大字砂利二六北佐野長次郎外九名宅へ忍入り飼兎十羽、白米二石、衣類數点價格四十五六圓を窃取した事件は昨十七日午前九時より平區香西判事係り白水檢事立會の下に公判開廷白水檢事より懲役十月を求刑された、判決言渡は來る廿六日午前十時 △相馬郡浪江町大字川添字小丸四土工森野朝藏(三)が同町門馬わき外三ヶ所へ夜這ひの目的で忍入つた事件は住居侵入罪で略式罰金二十圓に處された

平町の代表工場 電氣鑄鋼所開始

東北唯一の設備

平町仲町山田文一氏發企の平電氣鑄鋼所は平町堂の前に建設中の處過般竣工この程來操業を開始したが炭礦と漁業地を持つ磐城地方として各種の機械並に諸設備或は船具用の鑄鋼品の需要は極めて多いが從來此種工業は莫大の資本を要する

平町仲町山田文一氏發企の平電氣鑄鋼所は平町堂の前に建設中の處過般竣工この程來操業を開始したが炭礦と漁業地を持つ磐城地方として各種の機械並に諸設備或は船具用の鑄鋼品の需要は極めて多いが從來此種工業は莫大の資本を要する



明治太平記

(作) 寺島雄兵
(監) 寺島雄兵

第二回二十九回

開化の鬼 (六)

大久保の後姿が、踏舞の渦の中にまぎれてしまつた。

それを追ふて来た、俄紳士の大志賀の両眼は踏舞の流れにさそはれて、ぐるぐると踏舞室を駆けめぐるのでつた。

「おのれ、市藏め!」
だが、射るやうな両眼は、そのとき大久保とはまったく別なひとりの小貴婦人の、あでな横顔に引つか

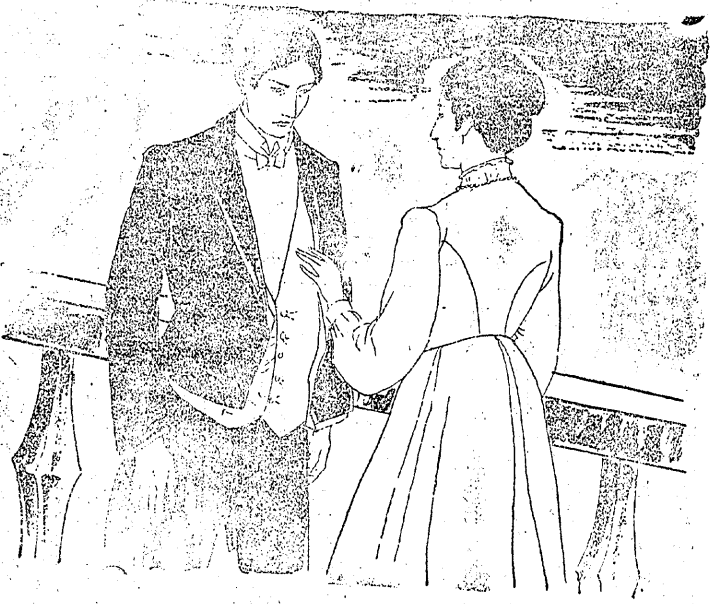
た。

水色絹の婦人中禮服を着た、流行の最先端髪に結ふた、らしやめんおとわにちがひなかつたので、大久保に、斬好状を叩きつけやうとする。献り立つ氣勢も、いくらかそこで鈍つた。

そして、ふしぎなあまり、里ごころといったものを、胸に覺えた。
彼は、人々の視線をさけるやうにして、椅子に腰かけ、つつましく踏舞に見

つてゐる、おとわに近づいていつた。
「もし」
そつと、らしやめんおとわの耳もとで、あまくさやくくと、をんなは、要心よく顔をあげた。
見ると、かたはらに突つ

で、微笑んだ。
「……」
おとわは、溢るゝほどな情感をおさへて、うなづいてみせた。
「バルコニーが、すい分すしいです」
「はい」
このかんたんな會話が終ると、おとわは立上つた。
それなり無言のまま、大志賀のあとについてゆく。
バルコニーはほんとうにすじかつた。海から吹いてくる風をそれよりか、後庭の夏樹の深緑が、窓々の燈にぬれて、雨のやうに輝い



立つてゐる。燕尾服の、コステックの紳士……おとわもおもはず。
「あら」
と、低いが、感激に満ちあふれた聲をあげた。
「おわかりですか」
大志賀は、お上品な口

であるのが、踏舞室ののがれてきたふたりをよみがへらした。
そこには、人の氣配もなかつた。
「あなたは、むかしのまゝだ」
大志賀は、一玩するやう

に、おとわの顔を見詰めた。
「あなたは、すい分、お變りなさいましたわ」
「おとわは死よりも強い愛の胸を押へて、日本女性らしい、無表情な顔を崩さなかつた。
「この、紅毛服ですか」
「え、さぞ、偉い官員さんにおなりでせう」
「いや、相變らずの素浪人です」
「でも……」
「これも、みんな借りものです」
「でも、お言葉まで變りましたわ」
「上等社會の茶の會に顔を出すには、いやで、お上品にいかねばならぬよ」
「大志賀さん」

おとわは、おとわの顔を、ばりながらいつた。
「なんですか?」
「あなた、助太刀屋の方は?」
「廢業はせぬ……だが、お客がさつぱり寄りつかぬ……」
「い、え、そのお客に」
「なに?」
「いま、あらためてあたしなりませう」
「え? ちや、おとわ、おまへはまだあれをすてなかつたのか?」
「は、はい。あなたにめぐりあへて、うれしうござんす……」
そのまゝ、大志賀の胸に取すがらうとして、はつと身をひいた。

毎度有難う存じます
レストラン
平 岡 館
電 624

産科 院長 木村寅次郎
婦人科 醫學博士 内 木 宗 八
外科 藥劑師 立 番 彌 一
藥 局
平町新川町十九
病室完備
入院隨意
木村病院
電話一六四番

外科 内臓外科
レントゲン線
病室完備
醫學博士 諸 橋 鐵 彌
◎新川町二七 (電四六四)

專 門
婦 産 科
花 柳 病 科
◎入院隨意
井 坂 醫 院
平町田町 電話五五九番

齒科 口腔外科
レントゲン科
平町土橋通り 電話三一三番
院長 東京齒科 醫學士 原 精 一
東京齒科 醫學士 柏倉武男
原齒科醫院

吉田眼科病院
平新屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄